



周北小学校

つながりが 災害から 子供を守る 地域を守る！

令和4年3月に「第3次学校安全の推進に関する計画」が閣議決定されています。これは、令和8年度までの5年間の計画として国が策定したものです。その中で、防災教育を、単に生命を守る技術の教育ではなく、「防災を通じた教育」と広く捉える必要性を述べ、期待される効果を次のように述べています。

<期待される効果>

- ① 災害時に、自分と周囲の人の命を守ることができるようになる。
- ② 児童生徒等の主体性や社会性、郷土愛や地域を担う意識を育むことができる。
- ③ 地域と学校が連携して防災教育に取り組むことを通じて、大人が心を動かされ、地域の防災力を高めることができる。
- ④ 自然がもたらす恩恵などに触れることで、自身の暮らす地域に関する理解を深めることができる。



本号では、西日本豪雨災害(2018.7.7)を受け、自治会、学校運営協議会、行政機関など多様な主体と連携・協働し、災害を「自分ごと」「地域のこと」と捉え、学び合っている周北小学校の実践を紹介します。

①令和3年7月 防災学習 I

- ・ 参加者…5・6年生、地域住民
岩国市危機管理課職員

3年前の豪雨災害後、地域の防災について話し合う機会がなく、大変有意義だった。【地域住民】



事前に調べた土砂災害の前ぶれや避難経路を二つ以上選んでおくこと等を発表できてよかった。家に帰って家族とも話したい。【子供】

小学校が中心となり、地域住民と市の担当者が話す機会が持て、大変ありがたいと感じた。【地域住民】

②令和4年7月 防災学習 II

- ・ 参加者…5・6年生、地域住民

災害直後は、復旧に向けて精一杯だったが、災害の時の行動や避難等について振り返り、次の災害に生かすことが必要だと感じた。【地域住民】



③令和4年9月 避難訓練・引き渡し訓練

- ・ 避難場所 …地域の酒造会社の2階

地域の安全を守るためにも、学習したことを下級生や地域の方々に語り継ぎたい。【子供】



見守り隊のKさんのお口添えで、近くて安全な場所に避難でき感謝しています。【村田泰伸 校長】

災害当時の様子を、地域の方から直接聞くことができ、災害の恐ろしさと早期避難の大切さがよく分かった。【子供】



※ 学校が、防災学習の場を地域に提供することで、地域住民の心を動かし、子供の心を耕し、防災意識と防災力を高めている。

④5・6年総合学習 「周北小の語り部になろう」

- ・ 5・6年生が語り部となり、被災体験のない2・3・4年生に、災害の恐ろしさや災害への備えの大切さを伝えます。